

タイトル	地域経済学科開設記念号発刊にあたって
著者	小坂, 直人
引用	季刊北海学園大学経済論集, 51(3・4): i
発行日	2004-03-31

地域経済学科開設記念号発刊にあたって

経済学部長 小坂直人

北海学園大学経済学部が創立されたのは、1952年（昭和27年）4月のことである。敗戦後の経済復興もまだ十分ではなく、人々の生活条件もけして良好とはいえない社会環境の下で、教育と研究の学びの場を生み出そうとした初代学長上原徹三郎先生をはじめとした創設者たちの苦労は想像を絶するものがあったであろう。同窓会などの席でしばしば耳にする、当時の教職員と学生たちの交流のエピソードの数々のうちに、官立志向がとりわけ根強い道内で私立大学を興そうとした開拓者たちにつきものの幾多の苦労をよみとることができる。そして、そのパイオニア精神が本学経済学部の歴史と伝統の中に深く刻まれているのである。

爾来、1966年（昭和41年）経営学科増設、1970年（昭和45年）経済学研究科修士課程開設、1995年（平成7年）同博士課程開設、2000年（平成12年）経営学研究科修士課程開設、2002年（平成14年）同博士課程開設というように、次々に学部、大学院の充実を実現し、北海道における私学のパイオニアとしての役割を果たしてきた。この間、道内をはじめとして、全国の産業界や官界に対して有為な人材を送り続けてきた本学経済学部であるが、21世紀を迎え、こうした伝統にさらに1ページを加えるべく、経済学部の改組発展を実行することとした。2003年（平成15年）度より、経営学科は新たに経営情報学科を加えて学部として独立し、新経営学部となり、同時に経済学部は、地域経済学科を増設し、既存の経済学科との新たな2学科体制をもって再出発することとなった。

地域経済学科創設の原動力は、やはり経済学部を生み出したパイオニア精神そのものであった。経済のグローバル化が進展する21世紀の初頭にあって、北海道の未来が、明るい確信によって語られることが必ずしも多くはない今、それでもそこに一筋の光を見出そうと苦闘する若者に対して、大学が何をなすうるか、彼らとともに、北海道と日本の将来について真剣に議論し、確固とした希望をつかみとる努力を傾けるための学びの場を提供すること、これが地域経済学科を創設した意味であると信じるものである。

始まったばかりの、遅々とした歩みではあるが、着実にそれは広がり、一つの流れを作り出しつつあるように思われる。北海学園大学経済学部が新たな1ページを記すことになる地域経済学科創設を記念して、ここに経済論集記念号を発刊するものである。